



るうてる



2024年
10
No.922

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教 「神の国はこのような者たちのものである」

日本福音ルーテル博多教会・福岡西教会・二日市教会牧師 池谷孝史

「イエスに触れていたがために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。』はつきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」

マルコによる福音書10:13-16



今年世界的にはウクライナ情勢やイスラエル・パレスチナでの対立、個人的には久々に広島での「こどもキャンプ」にスタッフとして参加するなど、改めて平和について考え向き合うことが多かったように思います。

ところで、冒頭の聖句では、弟子たちが、イエス様のもとに子供たちを連れてきた人々を叱つたというのです。当時のユダヤ社会では、子供は律法を自覚的に守ることができないために軽視されてい

ましたから、弟子たちはイエス様のもとに連れて来るにはふさわしくない、と考えたのでしょう。しかし、イエス様は憤つて弟子たちに言われました。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はつきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。そして、子供たちを抱き上げ、祝福した、というのです。」

イエス様は、世の中の価値観とは異なり、子供たちこそ神の国(神の愛の実現するところ)にふさわしいと示したのです。人間の社会を考えると、ある人を能力や資質によって評価することがしばしばです。しかし、イエス様はそうではなく、子供たちにこそ、愛を向けられ、救いに招かれます。ちょうど、すべての人々の罪の赦しのために愛を向けられ、十字架で命を捨て、救われたように…。

このイエス様の言葉は、弟子たちや周囲の人々は神の国に入るためには律法順守という条件があると考えていたために、受け入れることが難しかったでしょう。そして、もしかしたら、これはある意味で、現代人の考え方や価値観にも通じるものがあるかもしれません。現代の日本の社会は、自己責任、効率化、生産性と言った価値観に基づいて回っている社会、それゆえに、一人の人間の存在や命に目を向けるより、その人が何をしたら何ができるかが大切にされること、がしばしばある社会です。もしかしたら、わたしたち自身も自分の無力さを恥じたり、能力不足を嘆いたり、罪深さに失望したりすることがあるかもしれないのです。けれど、イエス様にとつては、すべての人は十字架で命と引き換えにしてまで愛する一人であり、神様に祝福された一人です。イエス様の前で二人の命は、その

単純に軽視しました。しかし、イエス様にとつて子供たちは(律法を守れない者でなく)ただ他者の愛、神様の愛にのみよりに頼んで生きる存在でした。そのような子供たちをイエス様は拒むことなく、喜び、受け入れてくださいます。

十字架の愛というのは、イエス様だけが示せるものかもしれませんが、結局、この究極の愛が見失われたり、大切にされないところでは、人が大切にされず、差別も争いも戦争もやむことが難しいのではないのでしょうか。その意味で、イエス様の愛を見失わないことが、人間同士が平和に生きるという課題に向き合うときにやはり必要な姿勢であろうと思います。

この究極の愛を知り、喜ぶ人は、自分自身を肯定するのみならず、他者を受け入れ、愛する生き方へと必ず結びついていくはずですが、どんな相手でも、年齢や能力、立場の違いによって軽視したり、排除したりせず、違いを認め、そこに生じる課題を共有しながら、ともに進む歩みが始まっていくはず。そこに、真の平和へ向けての一步が踏み出されていくこと、でしょう。そのような一人でありたいものです。



伊藤早奈

⑤⑤「また明日」

「単に人間的な動機からエフエソで野獣と闘つたとしたら、わたしに何の得があつたでしょう。もし、死者が復活しないとしたら、食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」ということになりました。」コリントの信徒への手紙「15:32

「また明日」と知人に言われびつくりしてしまいました。ちよつと前までは自分でも何も考えないで友達や知人と別れるときに言っていました。希望の言葉として、「また明日会おうね」という気持ちでした。

「また会えるよ」えつとこで、神様が永遠の命を与えてくださるからあなたと私は必ずまた会えます。希望の言葉から絶望に近い言葉だった「また明日」という言葉がまた希望の言葉へと変えられました。またお会いすることができるようになったら、どのような別れも私にとつてはまたお会いするための一時的な別れとなり、絶望に近い別れから希望へとまた変わりました。

えーじゃあ会いたくなくてやつと別れた人とも会つちやうわけ?と聞かれそうです。神様の御もです。たとえあなたが忘れていたとしても、憎んでいたとしても、憎まれていても大丈夫。「また明日」



子どもを祝福するキリスト
ニコラエスマーリス作・油絵・1653年制作・ナショナルギャラリー蔵



リレーコラム

「全国の教会・施設から」⑰



清泉保育園

古閑雅子 (清泉保育園園長)

「わかばをゆすつてみどりの風が部屋いっぱい広がって朝のお祈りいたします。すてきな今日をありがとう」という子どもたちと先生の元気で明るい賛美歌の歌声が今日も響きわたります。

熊本県の北部菊池市七城町にある「清泉保育園」はこの賛美歌にぴったりの自然に恵まれた環境にあります。七城米・キンショウメロン・トルコキキョウ等数多くの農産物、近くには菊池川が流れ隣には温泉施設があります。

農村伝道の二環から清泉教会が建てられその後始まった保育園ですが、教会の老朽化により保育園だけが残されました。

この農村地域にどのようにして教会ができ、受け入れられ、保育園が支えられてきたのだろうか。神様のなさる不思議を思われます。1956年第一回目の卒園生が54名だった保育園の現在の定員は50名。2024年度4月は44名から始まりました。

私たちの町もCOVID19を境として出産がぐっと減り、少子化に弾みがかかってしまいました。地方の子どもたちも都会の子どもたちと同じように、核家族化が進み子育てする保護者はいつも忙しく働いています。1日のほとんどを保育園で過ごす子どもたちは「生活のすべてを保育園で身に付けていきます。それだけに私たち保育園の責任と働きの重さを感じながら、キリスト教保育が大切にしてきた丁寧なやさしい保育をめざして、毎日保育士と話し合いを重ねています。同時に清泉という地域にある保育園と出会い、子どもたちを愛する保育士が喜びと感謝の心をもって働ける職場でありたいと願っています。

「将来は清泉保育園で働きたい」という目標を持つてくれた卒園生のためにも、希望を持つて子どもたち・保護者・職員一同、恵み祝福して下さる神様と共に歩み続ける清泉保育園でありたいと思います。



日本福音ルーテル市ヶ谷教会

浅野直樹 Sr.

(日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師)

市ヶ谷教会は、1952年6月のヌーディング宣教師宅での主日礼拝をもって産声をあげました。日本福音ルーテル教会が学生伝道を展開すべく、1953年5月に市ヶ谷土原町に東京学生センターが完成すると、市ヶ谷教会もここを拠点として本格的な宣教活動が始まりました。今年宣教72年を迎えています。

1961年4月に二人の米国人神学生の遺志により献げられた1万ドルを基金として敷地内にクライダー寮が併設されると、市ヶ谷教会と学生センターそしてクライダー寮は、別組織でありながら協力しあい宣教を続けました。その後1974年10月にルーテル市ヶ谷センターが完成し、市ヶ谷教会の宣教第2章が幕開けし今に至っています。会館の完成を契機に東京学生センターは閉鎖、クライダー寮は三鷹のルーター寮へ仮移転することとなりました。市ヶ谷センター会館は、2022年7

月から2023年8月にかけて耐震補強を伴う大規模修繕工事が行われリニューアルしました。市ヶ谷教会のチャペルは、平日は市ヶ谷センターのコンサートホールとして利用されるため、私たちがチャペルを使用するのは基本的に日曜日の午前中のみという制約があります。しかしながらチャペルがコンサートホールでもあるからでしょうか、神様は市ヶ谷教会にたくさん音楽のタレントを与えてくれました。荘厳なパイプオルガンに元氣いっぱいの聖歌隊、華麗なフルート、バイオリンとチェロの弦楽器、最近新たにサクソフラス奏者も与えられ、楽しみが増えました。年一回のユース礼拝は夏の定番となり、この日は青年が司式からメッセージまで礼拝をすべて担い、ギターとピアノ演奏でワークショップも歌ったりして主を賛美します。6月には中央線沿線地区の教会

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.

(世界宣教主事・市ヶ谷教会牧師)

ブラジル福音ルーテル教会200年祭

ブラジル福音ルーテル教会(IECLB)は、今年宣教200年を迎えました。最初のルーター移民が到着したのはブラジル南部の町ノバ・フリアブルゴとサン・レオポルド。その日5月3日と7月24日はそれぞれの日を記念日としています。今年はこの日のためにサン・レオポルドで記念行事が計画されていましたが、歴史を刻むべくこの日の礼拝は、結局7月28日にオンラインで行われました。5

がここに集合し一日教会祭が開催され、地区のメイン行事となっています。



月にリオグランデ・ド・スル州で豪雨と洪水が発生、多大な被害が出たため救援活動を優先することになったからです。「この記念祭はドイツ移民200年の歴史を覚えるというより、私たちの教会がこの国でそしてこの社会にあつて自分たちの役割に目を向けるべきなのです。私たちはブラジルの地でイエス・キリストの教会でありたいのです」シルビア・ゲンツIECLB総会議長。洪水被害という予期せぬ試練に、教会は断固とした決意で向き合うことになりました。

洪水が起る前の4月に記念行事の一環でミッシェン大会があり、全18教区から牧師も信徒も、若者も高齢者もサン・レオポルドに集合しました。そこで2030年までの教会ビジョン、目標、宣教方針などが話しあわれました。多岐にわたるテーマが議論され、「活発な議論からたくさん希望をいただきました。」IECLB総会議長「多様性を受け入れる教会でありたいのです。ゲンツ議長はIECLBに現存する日本人、トルコ人、韓国人、先住民の教会に触れつつ、「そうした方々に対してどうしたらいいのか」という霊的な居場所を提供したいのです」と語りました。

このことが当たり前ではなかったことが歴史を振り返ればわかります。1822年にポルトガルから独立、国の宗教はカトリック教としつつも、新憲法により非カトリック教徒の移り住みも認められるようになりました。IECLB教会内には多様な神学が存在しています。「伝統を重んじる人解放の神学を掲げ政治色の強い人、保守的で敬虔主義の人、ペンテコステ的な方リスマ派の人もいます。」それゆえゲンツ議長は「互いに話を聞く能力と意欲が必要」であり、教会の一致とその強化が最重要課題だと総括しました。

改 宣室 教 5

小泉基宣教室長
(日本福音ルーテル
札幌教会牧師)

岡村順子さん

日本福音ルーテル函館教会信徒
「ゴスペルサークルMSC指導者」

小泉 今回は、道南で最も活動的なゴスペルサークルを指導しておられる岡村順子さんにお話しを伺いました。岡村さんはゴスペルとキリスト教、どちらの出会いが先だったのですか？

岡村 はい、もともといろいろなジャンルの歌を歌っていたのですが、わたしを一番燃えさせてくれたのがゴスペルだったのです。20年近く前に夫とゴスペルサークルMSCを立ち上げ、練習場を探していたときに函館教会のソベリ先生と出会って招いていただき、その縁もあって夫とともに函館教会で洗礼を受けました。洗礼を受ける前に歌いながら感じていたモヤモヤが、洗礼を受けたことよって吹っ切れたように感じたのを覚えています。

小泉 MSCではどのような活動をしておられますか？ またメンバーの中にも洗礼を受けられた方がおありですか？



かということを一緒に考えたいと思っています。そのため、練習の後に牧師に祈ってもらったり、聖書のメッセージを語ってもらうことも大切にしてきました。函館教会は、昨年から牧師が常駐しない教会になってしまったのですが、それでも練習の曜日を工夫したり、オンラインを用いたりしながら、これからの教会で賛美し、教会とつながる喜びを、メンバーたちとわかちあっていたいと思っています。

岡村 毎週木曜の夜に礼拝堂で練習しています。礼拝で歌うことはあまりありませんが、教会やホールでコンサートを主催するほか、イベントに呼ばれたりして年間20回くらいはステージがあります。教会員は、初期メンバー3人だけという時代が長かったのですが、最近メンバーの受洗が続いたり、教会員さんがメンバーに加わってくださったりして、常時30人前後が活動しているサークルの中で、函館教会員が10名近くになりました。

小泉 岡村さんが、楽曲を指導する中で意識なさるのはどのようなことですか？

岡村 ゴスペルは英語の曲がほとんどですから、まず歌詞の意味をしっかり理解してほしいという事です。歌唱にあたっての技術的なことはもちろんですが、どんな神様を、なぜ賛美するの

小泉 今日は熱い思いを、ありがとうございませ

した。最後に、岡村さんが大切にしておられる聖句を教えてくださいませんか？

岡村 コリントの信徒への手紙10章13節です。とてもつらい経験に向きあわされたことがありますが、後になって、神様が道を備えていてくださったことを知りました。

「JELAアメリカ・ワークキャンプ」 中高生17名がミシガン州でのキャンプに参加！

森樹

(公益財団法人JELA職員)

公益財団法人JELAが主催する「JELAアメリカ・ワークキャンプ」が7月下旬に米国ミシガン州で開催されました。このキャンプはアメリカの宣教団体、Group Mission Tripsが、全米で展開している家屋修繕ボランティアキャンプに日本チームとして参加し、現地の中高生と寝食を共にし、ボランティアワーク

行機が欠航になるなど多くのトラブルに見舞われましたが、神様のお守りの下、誰一人欠けることなく開催することができました。ここからは参加者が作成した感想レポートを一部紹介します。全員のリポートはJELAのウェブページに掲載されていますので、二次元コードまたはインターネット検索からぜひご覧ください。

幸せにしようという温かい心が感じられました。また家を無償で修繕するワークでは、住人の方が僕たちの設置したシャッターを見て、「I love it! really love it!」と言ってくれました。この時僕は誰かのために思っているとき、その人が幸せであることが最高の報酬になるのだと感じました。(中学生)

でしなくてはならなかったことも全て、今後も関わりを持つていきたいと思える仲間たちとの時間を与えるため、私自身で相手に考えを伝えようとする勇氣を与えるために、神様が仕組まれて起きた出来事なんだと。神様は私の事をちゃんと見てくださっている。神様との関係を確認することができました。(高校1年生)

に汗を流し、毎日聖書の御言葉に触れ神様のことを学ぶワークキャンプです。今年も、全国各地の教会やミッションスクールに通う中高生17名が参加しました。行きの飛

プログラムに参加した友達は日本人も、アメリカ人も本当に優しくて、楽しい時間を過ごしました。最終日に僕が別れを惜しんで泣いているときは優しく抱きしめてくれて、ただ僕を喜ばせよう

私はこのキャンプに参加するまで、神様の存在は少し遠くて、自分なんて神様の目には写っていないだろうと思っていました。しかし、飛行機が飛ばず、蒲田教会で2日間日本人メンバーだけのプログラムを行ったことも、現地でのワークの間、スマホの翻訳が使えなくてクルーとの会話は全部英語

キャンプでは、話しかけるのもワークをするのも自分一人でやった気でいました。が思い返してみれば、不自由な英語でも話せたのは現地の子が私の話を注意深く聞いてくれたため、ワークでは私がやりたいワークを手助けして



山内量平探訪記⑩ 「和佐恒也」

古屋四朗

(日本福音ルーテル
日吉教会信徒)

この連載は私が実際に山内量平先生に関連する場所を歩いたことをもとにして書いていますので

すが、実は量平よりも先にキリスト者になり、後にルーテル教会で6人目の日本人牧師になった人

が、田辺から30キロ南の周参見(すさみ)にいたことを後で知りました。佐賀日田、直方などで伝道された和佐恒也先生です。

くれました。どうやらこの先生も、他の人から押しつけられたのを持ち込んだようです。この聖書を読んでもいくうちに、恒成はだんだん捉えられていきました。特に、マタイ伝6章でイエスが偽善者を厳しく批判されたところには汗をかきました。

そんなときに所用で田辺の旅館に泊まると、隣室で外国人が日本人たちに聖書の話をしているのが聞こえてきます。襖に耳を付けて聞いていた彼はついに我慢できず、襖を

開けて入り込み「私にも教えてください！」と言いました。明治15年(1882年)12月、恒成はこうしてへール宣教師に出会い、その後量平より2カ月早く受洗に至ったのでした。



和佐恒也夫妻

